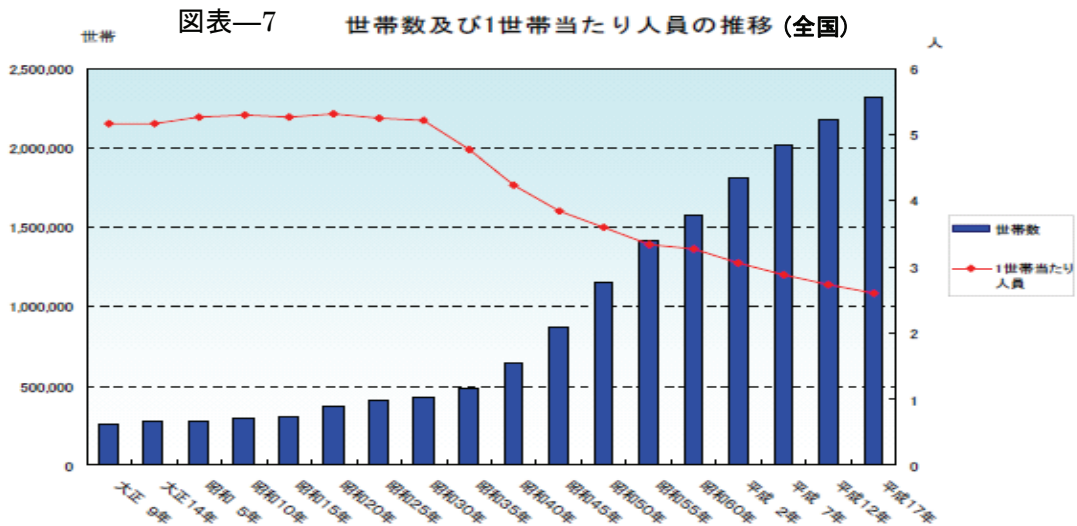


Ⅲ. ちばの「食」と「食育」をめぐる現状

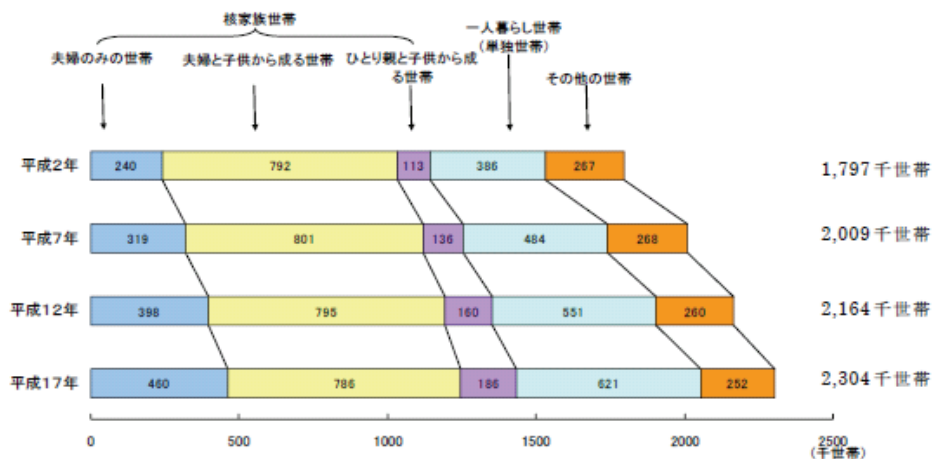
1. 社会情勢の変化

- 平成 17 年の国勢調査結果によると、千葉県の世帯構造は、「核家族世帯」が約 143 万世帯で一般世帯の 62%を占め、平成 12 年と比べ 5 年間で 5.7%増加しています。
- 一人暮らしの「単独世帯」は約 62 万世帯で一般世帯の 27%を占め、平成 12 年に比べ 12.7%増加しています。
- 65 歳以上の高齢者の夫婦のみの世帯は約 14.8 万世帯で平成 12 年に比べ 44.5%増加しています。また、一人暮らしの高齢者は約 13.7 万世帯で平成 12 年に比べ 40.3%増加しています。
- 平均年齢は、42.4 歳と全国で 6 番目に若い県ですが、年齢構成をみると 55 歳～59 歳と 30 歳～34 歳にピークがあり、高齢者世帯の急激な増加が見込まれます。また、食育に最も重要な乳幼児を抱える世代がピークを迎えています。



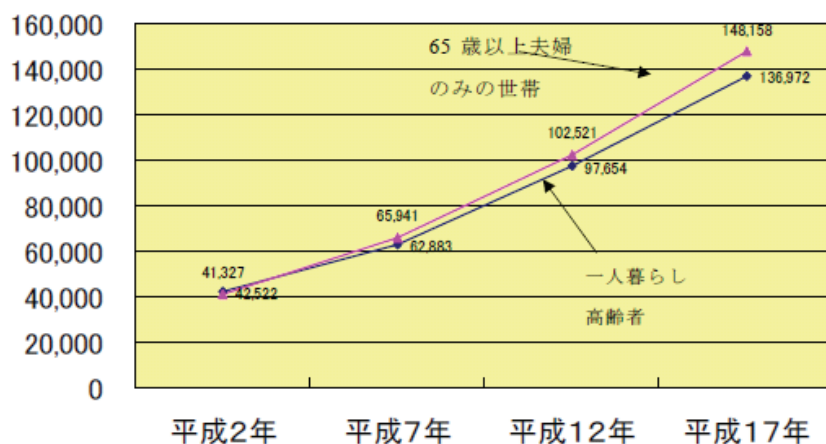
資料：平成 17 年国勢調査 (総務省)

図表—8 一般世帯の家族類型別世帯数の推移 (全国)



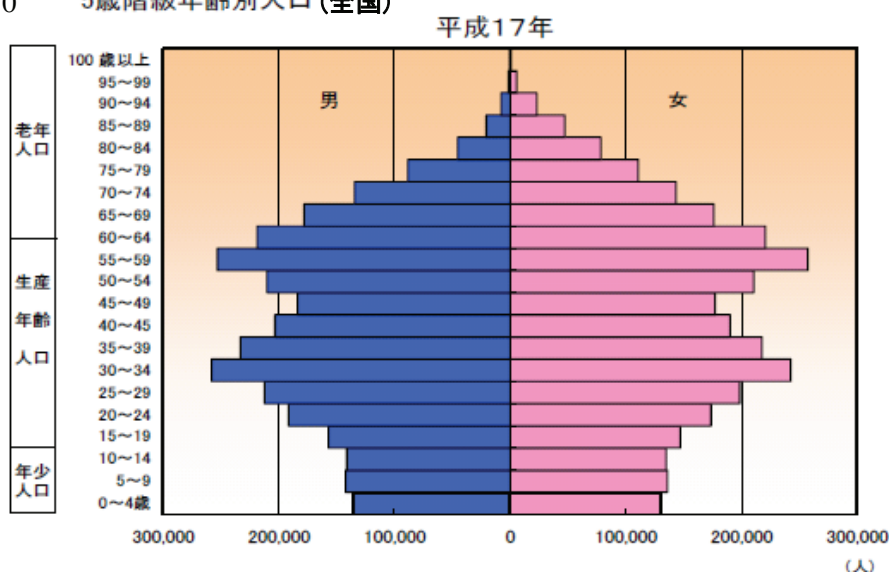
資料：平成 17 年国勢調査 (総務省)

図表—9 世帯 高齢者世帯の推移 (全国)



資料：平成17年国勢調査(総務省)

図表—10 5歳階級年齢別人口(全国)



資料：平成17年国勢調査(総務省)

○女性の就労意欲の向上を背景に、女性の社会進出が進み、女性の雇用者は増加しています。

図表—11 女性雇用者の増加(全国) (万人)

	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
全就業者数(女性)(A)	2,536	2,614(3.1%)	2,629(0.6%)	2,633(0.2%)
うち雇用者(B)	1,834	2,048(11.7%)	2,140(4.5%)	2,243(4.8%)
(B)/(A)(%)	72.3	78.3	81.4	85.2

資料：労働力調査(総務省)

注：1. 平成7年の()内は、平成2年からの増加率、平成12年の()内は、平成7年からの増加率、平成17年の()内は、平成12年からの増加率

2. 雇用者とは、会社、団体、官公庁等に雇われている給料、賃金を得ている者及び会社、団体の役員である者

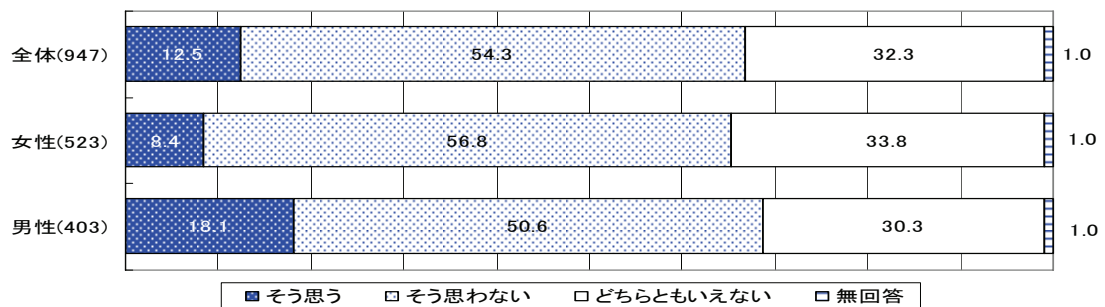
○千葉県が実施した男女共同参画社会の実現に向けての県民意識調査では、女性の社会進出に伴い、「男は仕事、女は家庭」という固定的性別役割分担意識について、男女ともに過半数が『そう思わない』と考えています。

○一方で、男女の平等意識については、社会的には圧倒的に男性が優遇されている場面が多いと考えられているなかで、「学校教育の場」、「法律や制度の上で」に次いで「家庭の中で」の平等意識が高く見られます。

○働く女性が増えていますが、家事の負担は、ほとんど妻が担っている状況があります。

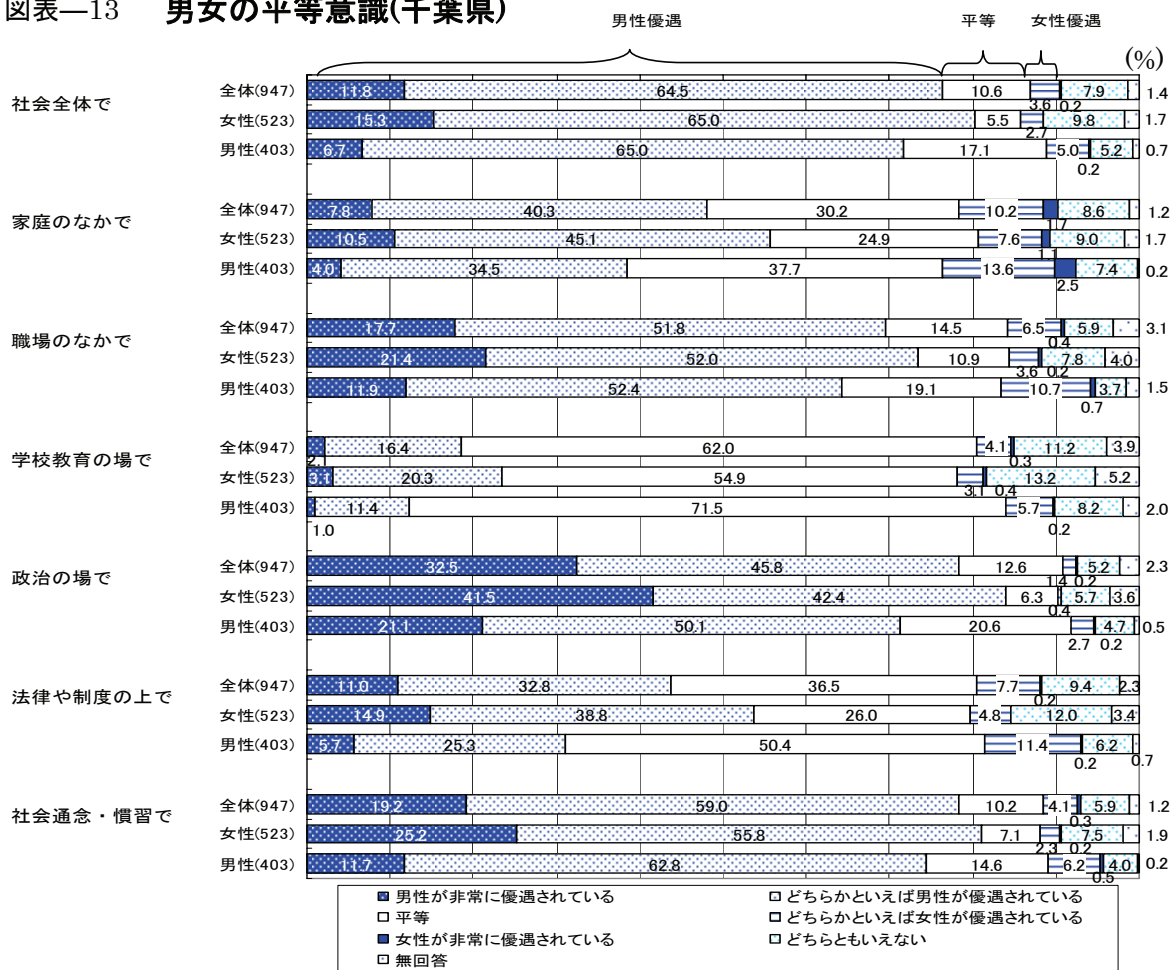
○女性が家事に使う時間は、平日であっても休日とほとんど変わらない状況です。

図表—12 「男は仕事、女は家庭」の考え方(千葉県) (%)



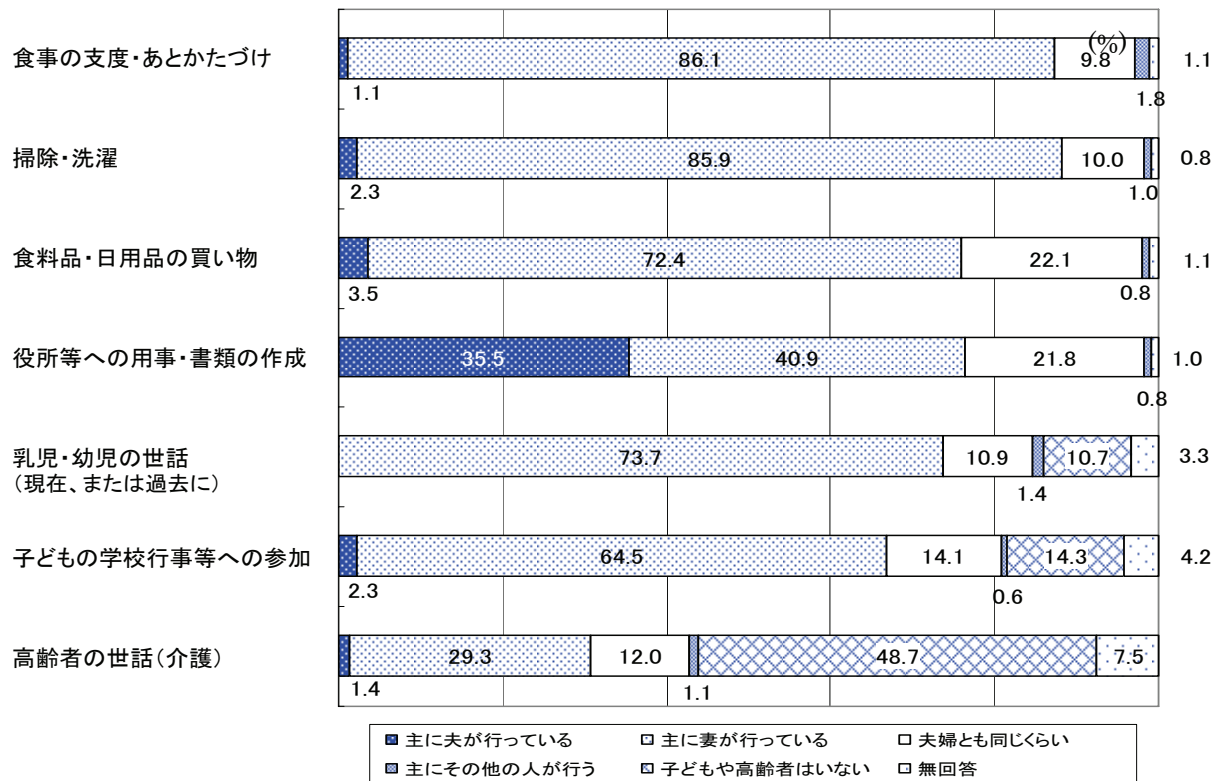
資料出所：千葉県男女共同参画課「男女共同参画社会の実現に向けての県民意識調査」(平成16年9月)

図表—13 男女の平等意識(千葉県)



資料出所：千葉県男女共同参画課「男女共同参画社会の実現に向けての県民意識調査」(平成16年9月)

図表—14 家事等の役割分担(千葉県)



資料出所:千葉県男女共同参画課「男女共同参画社会の実現に向けての県民意識調査」(平成16年9月)

図表—15

家事関連時間(週全体平均)(全国,千葉県)
(単位:時間,分)

	千葉県		全 国	
	女性	男性	女性	男性
家 事	2:42	0:12	2:34	0:13
介 護 ・ 看 護	0:04	0:01	0:05	0:01
育 児	0:20	0:04	0:22	0:03
買 い 物	0:37	0:16	0:33	0:14
合 計	3:43	0:33	3:34	0:31

曜日別家事関連時間(千葉県)
(単位:時間,分)

	女性	男性
平 日	3:41	0:23
土 曜 日	3:48	0:51
日 曜 日	3:48	0:57

資料出所:総務省「社会生活基本調査報告」(平成13年)

※ここでいう「家事関連時間」とは、15歳以上の人で「家事」「介護・看護」「育児」「買い物」を行っている時間を指しています。

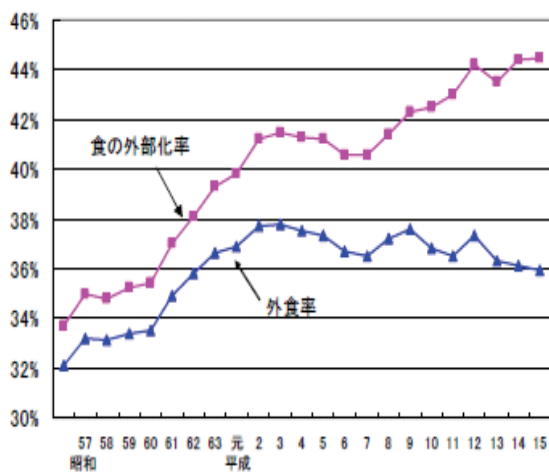
資料:平成17年度千葉県男女共同参画白書

2. 食の外部化・簡便化の進展

- 社会情勢の変化やライフスタイルの多様化に伴い、消費者の食に関する簡便化志向の高まりに合わせて外食や総菜・調理食品などの中食が普及し、食の外部化が進展しています。
- 本県の外食の摂食状況をみると、20歳代、40歳代男性の3割以上が毎日外食をしています。
- 食料支出の内訳をみると、世帯主の年齢が若い世帯ほど、外食の支出割合が高くなっています。

図表—16

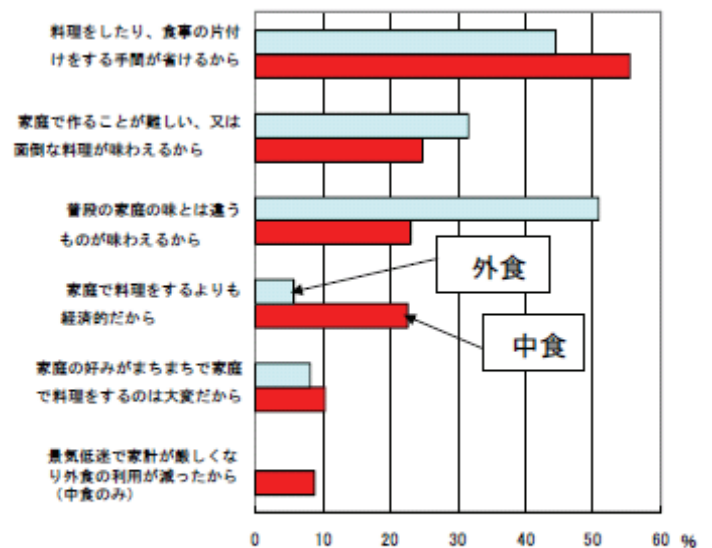
○食料消費支出に占める外部化率の推移 (全国)



(資料)内閣府「国民経済計算報告」、(財)外食産業総合調査研究センター「外食産業市場規模」、日本たばこ産業(株)資料を基に農林水産省で試算
(注) 外食率…食料消費支出に占める外食の割合
食の外部化率…外食率に惣菜・調理食品の支出割合を加えたもの

図表—17

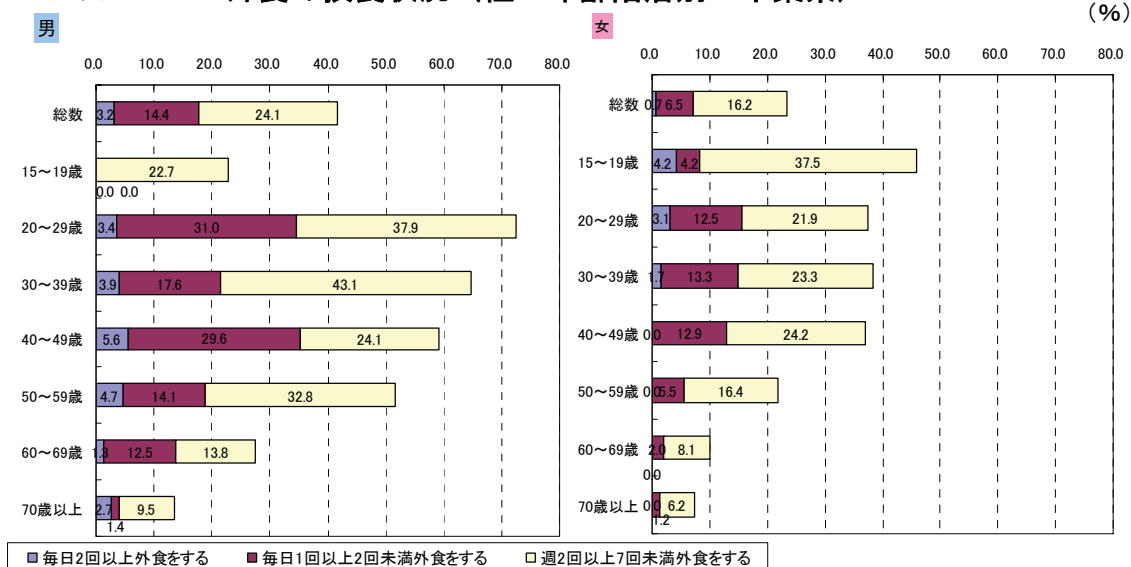
○中食・外食の利用頻度が増えた理由 (全国)



資料:農林漁業金融公庫「中食や外食の利用に関するアンケート調査」(平成15年6~7月調査)

注:全人口の年齢構成比に応じて無作為に抽出した1,250人を対象とする調査で、複数回答(2項目まで選択)の調査結果

図表—18 外食の摂食状況 (性・年齢階層別:千葉県)



平成17年度千葉県民健康・栄養調査報告

図表—19 食料支出に占める用途別・世帯主年齢階層別1ヶ月の支出（全世帯：全国）

(%)

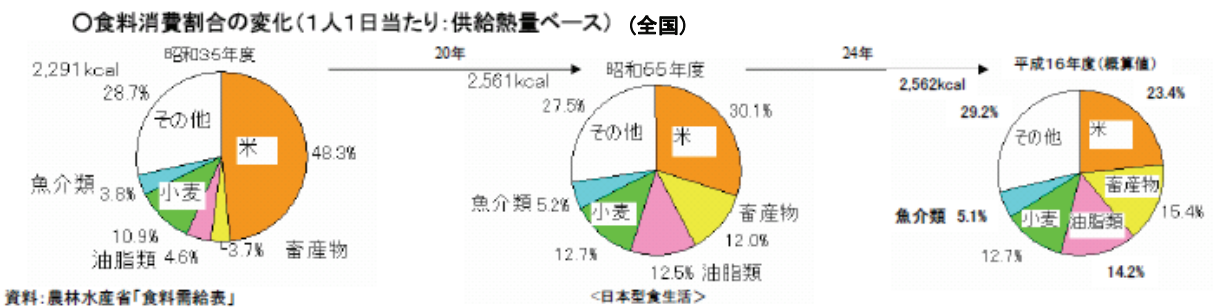
	魚介類	肉類	野菜・海草	調理食品	外食	その他
29歳までの世帯	2.4	4.1	4.5	12.9	45.8	30.3
30～39歳	5.2	7.3	8.1	12.3	30.6	36.5
40～49歳	7.4	9.1	9.8	12.7	22.7	38.4
50～59歳	10.4	8.9	11.6	12.8	18.5	37.8
60～69歳	12.7	8.0	13.9	11.5	14.1	39.9
70歳以上	12.8	6.9	14.8	12.4	11.9	41.1

資料：家計調査（平成18年：総務省）

3. 栄養バランスの変化

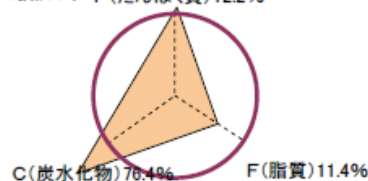
- 食料消費割合の変化をみると、主食である米が減少する一方、畜産物や油脂等が増加するなど、大きく変化しています。
- 栄養バランスの面では、昭和50年代中ごろに、平均的に摂取する栄養素（PFC）の熱量バランスがほぼ適切で、主食である米を中心に水産物、畜産物、野菜等多様な副食品から構成されるいわゆる「日本型食生活」が形成されています。
- 栄養素別に本県の摂取状況を年齢階層別にみると、適正比率に比べ、7～19歳で炭水化物がやや低く、たんぱく質、脂質の割合がやや高い傾向があります。
- 農林水産業が盛んな千葉県にあっても、野菜の摂取量は、平成12年に比べて減っており、成人の目標値に対して全ての年代で不足しています。また、魚介類の摂取量も、ほぼ全国平均並です。

図表—20

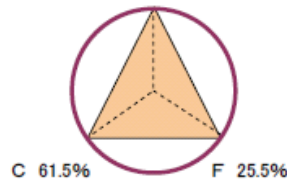


○栄養バランスの変化(全国)

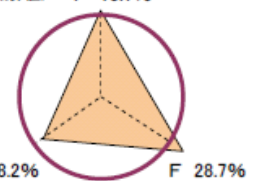
昭和35年 P(たんぱく質)12.2%



昭和55年 P 13.0%



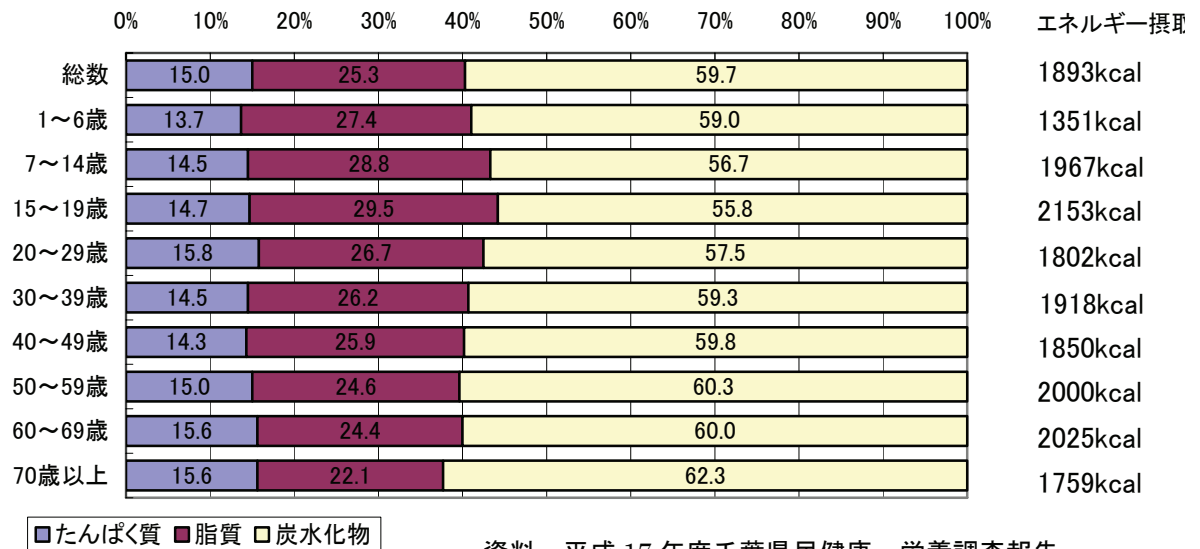
平成16年(概算値) P 13.1%



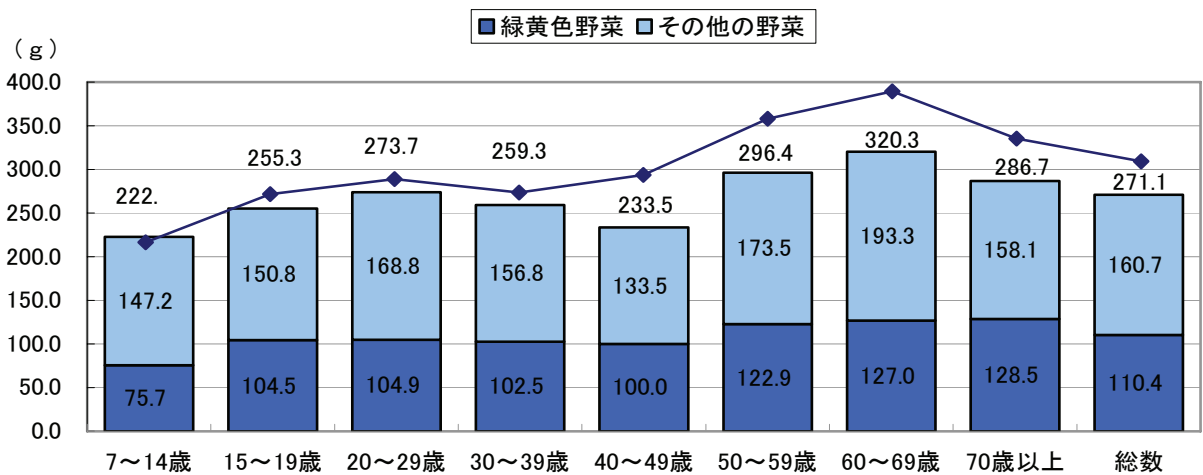
資料：農林水産省「食料需給表」

注：適正比率は、食料・農業・農村基本計画における平成22年度の目標値P(たんぱく質)13%、F(脂質)27%、C(炭水化物)60%

図表—21 エネルギーの栄養素別摂取構成比(千葉県)



図表—22 年齢階層別 1 日あたりの野菜の平均摂取量(千葉県)



野菜摂取の目標値

野菜：成人 1 日あたり 350 g 以上
 緑黄色野菜：成人 1 日あたり 120 g 以上

図表—23 年齢階層別 1 日あたりの魚介類の平均摂取量 (千葉県)

